

第1学年 国語科の実践

1 単元名 どくしょびじゅつかんをつくろう

「本とともにだち どくしょのへや」

2 単元目標

- 今までに読んだ本の題名や作者、一番好きな場所の絵を描くことができる。
- 本のあらすじやおもしろさなどを捉えることができる。
- 読書を楽しむことができる。

3 ひびき合う三の丸の子どもたちをめざすための指導の工夫

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
低学年ブロックテーマ 「感じる心、素直に表現する自分」
・人の言動に何かを感じる姿 ・自分の思いや、他者からの刺激を受け止め、素直に表現する姿

<聞く・話すの指導について>

説明を受ける場面や、興味のある話題に対しては、大事なことを落とさないように話の順序に沿って聞いたり、話したりすることができてきている。しかし、話し合う場面では、話の内容が少しずつ変化していくと理解できなくなったり、話題からそれないように話ができなかったりして、自分がひらめいた言葉を口にすることもある。そこで、ペアトークを取り入れてきた。ペアトークでは、まず、自分の考えを話し、次に相手の考えを聞き、「同じ」「にている」「ちがって」などの反応をするよう促してきた。「同じ」「ちがう」を意識させてきたが、「同じ」「にている」の違いについては、指導を続けているところである。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

「話したい」「聞きたい」「話し合いたい」という話題に向けて、自分の考えをもち、ノートやカードに書き、聞き手を意識した話し方ができるようになってきた。国語の「はじめは や！」の学習では、「くまが、いちばん気持ちが変わったところは、どこだろう？」という投げかけに、文章から自分の考えをもち、友だちの意見と交流する中でくまの気持ちの変化を読み取ることができた。子ども一人ひとりの思いや考えを引き出し、お互いの考えを聞きながら自分の考えを広めたり深めたりすることができるようになることが、ひびきあう学びにつながっていくと考えている。

4 単元と指導について

<単元について>

本教材は、学習指導要領第1学年及び第2学年「読むこと」の指導事項「カ」及び言語活動例「ア」また、「書くこと」の指導事項「ア」「オ」及び言語活動例「エ」さらに、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「イ」(ア)を受けて、自分のためだけに読むのではなく、人に紹介することによって自分の作品に対する思いを深めることをねらいとする。単元構成としては、まず、読書週間であるため「たくさん本を読もう」と投げかける。教室にも、本の紹介コーナーを作り、今までに読んだ本の中から、心に残っている本や一番好きな場面を絵に描いて、登場人物に着目させ「おはなしのくに」へ繋げていく。そして、登場人物の気持ちに共感したり自分の

成長を振り返りながら本を選んだりして、読書に対して意欲を持続させ、思いを深めることができると考える。本を選ぶ活動を通して、試行錯誤しながら、内容の面白さや楽しさを実感し、共に学ぶ仲間の考えに共感しながら、良さにも気付いてほしいと願い、本単元を構成することとした。

<指導について>

単元の導入では、読書週間を利用して、どの子にもたくさん本を読むよう意識させるようにする。友だちと本を見せ合ったり教え合ったりしていく中で、繰り返しのおもしろさや登場人物のおもしろさ、ストーリーの展開のおもしろさ季節や時間の流れなどを1年生なりに捉えさせたい。また、楽しかったこと、気づいたことなどを絵や文で表現したり、自分が書いたものを友達に伝えたりして交流を深める中で、話し合ったり、見合ったりして友達の良さに触れ、自分の読書に活かせるようにする。その際、児童の「本を紹介したい」という気持ちを大切にして活動を進めていきたい。

まず、「おすすめ本の紹介」では、紹介するときに似ているお話で分類しながら紹介させていく。子どもたちは、あらすじを話すことが多いので、「でんしゃ」「ぼうけん」「ふしぎ」「じけん」「ぞろり」「むかしばなし」「ほんとうのはなし」など、ストーリーに着目しながら、伝え合わせる。

次に、図工で「心に一番残った場面を絵に描こう」と読書感想画を描く。このときに、登場人物の気持ちにより添いながら読み進めていき、絵を描かせる。

最後に、「おはなしのくにをつくりたい」と意欲を持たせて、登場人物のおもしろさから読み深めさせる。本物の動物と本の中の動物との違いについて、混同している子もいる。そのため、「気持ち」を考えながら本を読むように声をかけていきたい。「気持ち」を表す言葉や表情などから読み取ることや、行動・動作からも気持ちが伝わることを意識させていきたい。そして、自分の大好きな「主人公」に出会えたら、絵に描いたり、動作化したり、音読したりしながら、読みを深めさせ、そして友だちに伝え広めさせたい。この「自分の好きな主人公を友だちに伝えたいという思いと、その主人公のおもしろさが分かったと共有する姿」をひびき合う姿としたい。

5 単元構想 全6時間扱い（本時6時間目）

単元目標	○今までに読んだ本の題名や作者、一番好きな場所のカードに書くことができる。 ○本のあらすじやおもしろさなどを捉えることができる。 ○読書を楽しむことができる。
------	---

読書週間 たくさん本を読もう
 コスモスに本を借りにいこう。
 家から本をもってこよう。
 友だちはどんな本を読んでいるのだろう。
 自分の読んでいる本を紹介したいな。

＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝
 〃 本のあらすじやおもしろさなどを捉えることができる。（読むこと）
 〃 読書を楽しむことができる（読むこと）
 〃

おすすめ本を紹介しよう①②

○心に残った本を紹介したいな①

↓ おすすめの本の紹介カードを書いて友だちに教えた

○おもしろい本だよ。聞いてほしいな②

↓ 友だちの読んだ本を知りたいな。
 自分の読んだ本と似ているところはあるかな？

- * 電車 * 冒険 * 不思議 * 事件 * ゾロリ
- * 昔話 * 逸話

絵に描きたい

○読書感想画の課題
 図書「クジャクのジャック大だっそう」を読んで絵を描く。（図工）

紹介された本を読んでみたい

もっとおもしろい本を見つけない

はじめは「やっ！」

友だちになるのかな。
 くまってどんな性格だろう？
 くまの気持ちが変わったところはどこだろう？

登場人物がおもしろい

お話の国をつくろう③④⑤⑥本時

おもしろい登場人物を紹介したいな。
 お話の中の動物を紹介したいな。
 動物だけではなく、人や恐竜も紹介したいな。
 本の町をつくりたいな。

○どんな住人がいるのかな？③

おもしろい本を見つけないな。
 なかなか見つからないな。
 何でもいいのかな？どうしよう。
 みんなに絶対に紹介したい動物を見つけない。
 みんなを驚かしたい。

○おもしろい住人をみつけたよ。④⑤

絵や言葉で伝えたい。

＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝ ＝
 〃 登場人物の気持ちを読み取る（読むこと）
 〃 読み取ったことを伝えることができる
 〃 （関心意欲態度）
 〃

○お話の国をつくろう ⑥本時

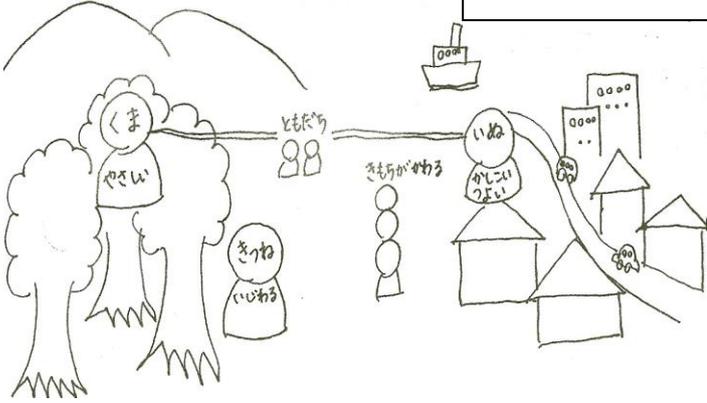
登場人物（どうぶつ）を紹介したい。
 似ているところを見つけよう。

いろいろなお話を知って楽しいな。
 もっと、本を読みたいな。

6 本時について

(1) 本時の目標 紹介したい本の登場人物のおもしろさを伝えることができる。

(2) 本時展開

学習活動	主な支援・留意点【評価】
<p>おはなしのくにをつくろう</p> <p>①本のなまえ ②主人公 ③性格 ④おもしろいところ (おすすめ)</p> <div data-bbox="539 383 817 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>つたえよう</p> <p>声の大きさ 絵がきれい しせい おもしろい 分かりやすい言葉</p> </div>  <p>○紹介された本のあらすじや絵を見て、読みたい本を選ぼう。</p>	<p>○黒板に動物の絵を貼り、「おはなしのくに」を作ろうと意欲を持たせる。</p> <p>○黒板に貼られている動物の絵を見ながら、自分のイメージを膨らませる。</p> <p>○動物のイメージを共有させる。</p> <p>○自分の紹介したい登場人物を思い出させる。</p> <p>○登場人物の紹介をしながら、おもしろさを伝え合う。</p> <p>○「くま」が、描かれている様子を共有する。</p> <p>○「きつね」は、本によって設定が違い、良いきつねと意地悪なきつねがいておもしろいことに気づかせる</p> <p>○本当は、怖いけど怖くないふりをしているというような、共感できるおもしろさに気づかせる。</p> <p>○絵や動作化など具体物を見せながら、説明するように声をかける。</p> <p>○イメージとの違いやそれぞれの登場人物の気持ちが変わっていくおもしろさに気づかせる。</p> <p>○話しについて行けてない児童には、個に応じた言葉かけを行う。</p> <p>◇本のあらすじやおもしろさなどを捉えることができる (読む)</p> <p>○話を聞いて楽しかったことや読んでみたい本について交流する。</p> <p>◇おもしろい本を見つけようとする (関心意欲態度)</p>

7 実践を終えて

ひらがなを書けるようになった子どもたちに、言葉を上手に使えるようになってほしいと願いを持ち日々学習活動を行ってきた。単語から文へ興味を持たせたり、語彙を増やしたり、言葉と気持ちを一致させたりするために、読書活動の重要性を感じている。そこで、読書活動の楽しさを味わわせたいと本単元に取り組んだ。

<成果と課題>

友だちの紹介した本を読み感想を交流する姿が見られた。本を身近に感じ、繰り返しやストーリーのおもしろさに気づいたり、おもしろさには「楽しい・こわい・せつない・・・」などいろいろな要素があると気づいたりすることもできた。

しかし、本授業では、子どもたちは、「言いたい」という思いが強く、ただの発表で終わってしまった。全員が発表するのではなく、「登場人物の性格のおもしろさ」「お話のおもしろさ」「繰り返しのおもしろさ (ストーリーのおもしろさ)」に焦点を当てれば、ひびき合いにつながったと思う。

ひびき合うためには、やはり「聴くことができる」「聴いて反応できる」「聴いて自分の考えと比べられる」という態度を育てなければならないと実感している。

まず、「聴くことができる」については、相手が何を伝えたいか考えながら聴くことや話し言葉を実感として捉える力を身につけさせたいと思った。また、「言いたい」→「話したい」→「伝えたい」へと気持ちを変化させていかなければならないと感じた。そして、子どもたちの「言いたい」という思いを大切にしながら、「言いたい」>「聴いて反応する」ではなく、「伝えたい」<「聴いて反応する」という姿にしたいと思った。そういうひびき合う授業作りを目指したいと思い研鑽をつとめようと授業を終えて決意を新たにした。